

## 第7回九頭竜川流域懇談会 議事骨子

日時：平成27年2月6日（金）13：30～15：30

場所：福井県国際交流会館 B1F 多目的ホール

第7回九頭竜川流域懇談会の内容は次のとおり

### ◆審議

---

#### I. 九頭竜川下流部ブロック河川整備計画の点検（福井県）

県の管理区間において九頭竜川下流部ブロック河川整備計画に基づき実施してきた事業や取組みにおける進捗点検結果のうち、以下の重点項目について河川管理者から説明を行った。

- 1) 河川工事における段階施工の進め方（竹田川、兵庫川、底喰川）
- 2) 多自然川づくりの取組み（芳野川）
- 3) 河道の維持管理

#### ■委員からの主な意見・質問及び河川管理者の回答

##### <河川工事における段階施工の進め方>

【質問】竹田川の改修で、左岸の引堤だけを上流に延伸することでコストが下がるのはなぜか。

【回答】河口の近くでは水位が高いために護岸工事は締切が必要になる。毎年少しずつに区切って工事を行うと、この仮設費用が高くなるためである。

【質問】兵庫川は堰の撤去後にその上流の河道掘削を行うことになっているが、撤去前の河道掘削は意味がないということか。

【回答】堰によって河床の高さが決まっているので、それより低い部分を掘ったとしても水たまりが増えるだけで洪水を流す効果はない。

【質問】底喰川は何が段階施工なのかがわからない。

【回答】上流の福井市が整備した遊水地の効果を見込んで河川整備計画の完成形を工事費が安くなるように変更し、工事の進捗を速めたものである。

【意見】段階施工の目的を、例えば治水の安全性、生活の利便性、経済性、環境等のカテゴリーに分けて整理した方がわかりやすいと思う。

【回答】今後、ご指摘を参考に分類することを検討する。

### <多自然川づくりの取組み>

【質問】 芳野川の視察では水の濁りが非常に気になったが、水はきれいになったと判断しているのか？また、水がきれいになった理由は何か。

【回答】 底生生物の指標で判断して水はきれいになったと考えている。  
要因としては、森田地区の土地区画整理事業に伴う下水道の整備のほか、水際植生の回復による浄化が考えられる。

【質問】 底生生物の指標で水がきれいになったということだが、具体的にどれをもってきれいだと判断しているのか。

【回答】 きれいな水に生息している底生動物の確認数が多くなっていることから判断している。

【意見】 生態系を維持する水田農法、学校の環境教育、河川改修事業が連携する方向を目指してほしい。

【回答】 河川と田んぼの連続性という点について、今後、農林部局と連携していく。

【質問】 芳野川と九頭竜川の合流点に魚道が造られている。この有効性は、芳野川における回遊性魚類の確認で見えてくると思う。魚類調査ではどの程度確認されたのか。

【回答】 そのような観点での整理が抜けていたので、今後は分析するようにする。

【意見】 回遊性魚類としては、アユ、ヨシノボリの仲間を対象にするとよい。

【意見】 芳野川では河川改修前と改修後で確認された魚類が4種から14種に増えている。このようなデータを示すことは大事である。

さらに、河川工事や確認された魚を子供たちにみせることが大事だと思う。

【回答】 学校と連携して子供たちと一緒に生物調査を行うなどの活動が必要だと考えている。

【意見】 現地視察で見た範囲では、直進性の高い川が多いと感じた。このような川では、子供が水に流された場合になかなか岸にたどりつけない。リスクマネジメント上からも瀬・淵を作ることで岸にたどりつけやすくなるし、生き物にとっても重要である。

【意見】 都市の河川では、川をいじらないで環境を良くすることは不可能である。川をいじることで生物が更新される。

芳野川でこれだけの水生昆虫がいるということは河川改修がうまくいった証しだと思う。

芳野川でオイカワが確認されている。これはアユが棲める川に近づきつつあることを示している。

【質問】七瀬川の魚道は魚の遡上に効果があるのか。

【回答】堰上流部で河川の改修工事を実施しているため詳細な調査は実施していない。  
今後、事業を進めていく中で調査を実施する。

#### <河道の維持管理>

【意見】浅い河原など、川の安全な場所へ近づくための伐木や河川敷の利用について考えていただきたい。

【意見】芳野川はもともと田んぼの排水路であり、非かんがい期には水量が減少する。  
維持水量として上流で新鮮な水を補給する工夫が必要である。

【回答】芳野川は流域に山を持っていないので環境用水の確保について今後考えていく。

【質問】福井は地下水位が高く、地下水の湧水が水源になっていたところがある。底喰川の河床掘削で地下水が湧き出すことはなかったか。

【回答】今のところ、地下水の湧水で工事に支障がでるとか、河川の形態に影響がでるということはない。

【質問】住民との協働による「河川美化活動」の取組が減少しているように見えるがどのような状況か。

【回答】高齢化の影響かどうかかわからないが、参加人数は減少している。ただ、作業面積は変わらない。今後ともできるだけ続けていきたい。

#### <その他>

【質問】芳野川周辺の河合春近用水がパイプライン化された場合の排水機能の分担についてどのようになっているのか。

【回答】具体的なことは決まっていない。今後、農林部局と連携していく。

【質問】都市部の浸水対策という点で、下水路の整備等において市と連携しているのか。

【回答】治水事業だけでは賄えない部分を、下水道事業あるいは水田等と連携しながら治水効果を上げていきたい。

## II. 九頭竜川水系河川事業の実施状況報告（近畿地方整備局）

国土交通省が実施している河川事業、足羽川ダム建設事業ならびに既設ダムの管理状況について、河川管理者から主に以下の報告を行った。

1. 河川改修事業の概要
2. 自然再生事業の取組み
3. 足羽川ダム建設事業の進捗状況
4. 真名川ダム、九頭竜ダムの洪水調節効果

### ■委員からの主な意見・質問及び河川管理者の回答

#### <福井河川国道事務所>

【質問】 鳴鹿大堰におけるサクラマス遡上環境向上の取組というところで、鳴鹿大堰の放流パターン変更により遡上個体数が増加したとあるがどういうことか。

【回答】 堰の左右両岸に魚道があり、その横に呼び水水路がある。この魚道と呼び水水路の流量を変化させて遡上数を調査した結果、魚道の流量を増加するとサクラマスの遡上が増えたことを確認できた。ただし、結論を出すために継続して検証していく。

【質問】 アユ等の小型魚には影響を与えないとはどういうことか。

【回答】 大型魚が上りやすいように魚道の流量を増加すると、力の弱い小型魚は上りにくくなるのではないかと懸念があったが、そのようなマイナス作用は確認されなかった。魚の遡上は季節的に特長があるので、遡上する魚ごとに対応していけばよい。

#### <足羽川ダム建設事務所>

【質問】 足羽川ダムの環境アセスメントの対象範囲、実施方法、建設後のモニタリング方法について教えてほしい。

【回答】 ダムの貯水地範囲とその余裕幅及びダム放流による水質影響範囲が対象範囲となっている。対象範囲において、事業実施前に動植物の生息状況や水質の状況について現地確認調査を実施しており、事業実施中においても工事による影響の有無について調査を実施している。建設後についても同様に影響の有無について調査を行う。

【質問】 足羽川ダムの環境影響調査結果はホームページとかに掲載されているのか。

【回答】 調査結果は足羽川ダム工事事務所のホームページに公開している。

【質問】 福原先生や奥村先生が参加している足羽川ダム環境モニタリング委員会の開催頻度等はどのようなものか。

【回答】環境モニタリング委員会は毎年1回委員会形式で定期的に行っている。ただし、必要に応じて随時実施する予定。

【質問】足羽川ダムの諸元は決まっているのか。

【回答】高さなどは決まっている。現在、地質調査を実施している段階であり、今後水理模型実験等により詳細を決めていく。

【質問】河川空間の利活用についてどのように考えているのか。

【回答】足羽川ダムは、常時は水を貯めていないため空間があるが、現時点では具体的な利用計画はない。

ただし、最近ではインフラツアア一等も企画されていることが多い為、足羽川ダムの本体工事に着手する時には、建設現場を見ていただくようなインフラツアア一等を地元の町や民間企業等と協力して企画していきたい。

#### <九頭竜川ダム統合管理事務所>

【質問】日帰り留学という、上下流の子供の交流イベントは平成27年度も実施予定か。

【回答】平成26年度に初めて実施したが、今後とも継続していく。

【意見】上流でゴミを流すと下流まで行ってしまおうとか、環境教育に配慮したイベントとかを考えていくとよい。

【回答】今は構想段階であるが、九頭竜ダムができて50周年になる平成30年には流域一体で何か取り組むことを考えている。

#### <その他>

【質問】最近、「防災から減災へ」という言葉を聞いた。河川の安全の確保等の考え方において国土交通省のスタンスは変わってきているのか。

【回答】変わってきている。

ある一定規模までは施設で守るが、施設で守るには限界があるのでそれを超える場合は逃げて、せめて命だけは守ろうという考え方になっている。目標規模を超える雨が降った場合などは逃げていただくしかないということを今まで以上に周知する必要がある。

#### ◆その他

---

- ・次年度の流域懇談会は、国土交通省は事業実施報告、福井県は九頭竜川中流部ブロックの進捗点検を報告する。

- ・流域懇談会の委員の皆様は、平成 27 年 3 月 31 日に任期を終えることになる。後日、再任のお願いをご連絡差し上げるので、よろしく申し上げます。